岡山県における自生樹木の切枝花木としての利用に関する研究

誌名	岡山県立農業試験場研究報告 = Bulletin of the Okayama Prefectural Agricultural Experiment Station
ISSN	03855902
著者名	秋山,昌弘 鴻野,信輔 貝原,三雄
発行元	岡山県立農業試験場
巻/号	4号
掲載ページ	p. 15-25
発行年月	1981年3月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council Secretariat

AgriKnowledge

岡山農試研報 4 ：15-25(1981)

岡山県における自生樹木の切枝花木としての利用に関する研究

切枝花木類の探索と有望樹種の選抜*

秋山昌弘・鴻野信輔・貝原三雄

Studies on the Utilization of Spontaneous[11]Trees for Cutting-flower in Okayama Prefecture

The Search of Available Trees and the Selection of Promising Varieties

Masahiro AKIYAMA, Shinsuke KŌNO and Mituo KAIHARA

緒　　言

本県では多くの自生樹木が切枝として利用されており，その需要は生花の稽古用が主体である。しかし，近年では装飾業者が使用する業務用や，一般家庭における利用など，利用面は多様化して需要が次第に増加している。

自生樹木からの生花材料は，従来，専門の山採り業者によって採取され，市場に出荷されてきた。その取扱金額は，県内の市場だけでも3億円に達するものと推定され，切枝全体の取扱金額のほぼ40%を占めている。しかし，採取場所が土地開発によって急激に縮少されたうえ，近年はとくに自然保護や，環境保全的な立場から，切枝花木として採取を続行することは，極めて困難な状況になってきた。従って，自生樹種の切枝を今後も継続して，安定的に供給し得る対策の樹立を，山採り業者および市場側から強く要請されるにいたった。

筆者らは，この要請に応えるため，自生樹種の切枝生産を栽培によって行ない，安定的に供給することを前提に，その足がかりとして1974年から，本県に自生する樹木のうち，切枝花木として利用し得る樹種の探索，利用形態および利用時期などの調査を開始し，有望樹種の選抜をほぼ終了したので報告する。

研究の端緒は，当場前小林甲喜場長の示唆によるものである。研究の推進に当り，植物学的な専門分野における緒事項の指導，資料や文献の提供，現地探索などについて，津山博物館難波早苗研究員より懇切な援助を受け，当場場友会山田源太郎副会長，岡山県普及園芸課千田昭弘専門技術員からは，積極的な協力を受けた。以上の各位に対して厚くお礼を申し上げる。なお，側面的な援助をいただいた岡山県自然保護課，岡山県林業試験場や探索，調査に協力いただいた多くの関係機関と関係緒氏に対して，併せて深甚なる謝意を表する。

調　査　方　法

1．樹種の探索，調査

(1) 資料，文献による探索

既に切枝花木として利用されている樹種で，本県内に自生する樹種を造，庭園樹木については宮沢（1960, 1978），安田（1973），吉川（1972）の記載，花木については秋田・平岩（1959），小杉（1969），関（1939）の記載，茶花については小堀・千ら（1979）などの記載の中から既利用樹として選定した。なお，本県内における自生樹木の確認は，岡山県樹木目録[14]および岡山県内生物目録（植物の部）[18]によった。

(2) 生花市場の調査

1977，1978年の2年間，岡山県生花市場に切枝として出荷されていた樹種の中から，本県に自生しているものを既利用樹種として選定した。

(3) 現地探索および調査

1974年から1980年までの期間に，切枝花木として利用可能な未利用樹種の探索を主体に，観賞の対象となる部分および特長（利用形態），利用時期をも合せて探索，調査を行なった。

1） 探索地域

高梁川水系5地域，旭川水系10地域，吉井川水系7地域，その他1地域の計23地域で，県最北部から県南部にわたり，標高は60mから1,100mにおよんだ。

2） 利用形態

切枝花木として，観賞価値の認められる部分および形態的な特長を①休眠期間中の芽（以下休眠枝と略す），②出芽初期から展葉にいたる間の新芽（以下出芽枝と略す），③展開した葉（以下展開葉と略す），④花（蕾を含む），⑤果実，⑥紅(黄)葉，⑦枯葉の7区分とし，該当する樹種をこれによって整理する（付表参照）と共に，その利用時期（期間）も調査した。

2．利用可能な樹種の選定

資料，文献および市場調査によった既利用樹種および，現地探索，調査によった未利用樹種の中から，筆者らが切枝花木として，観賞価値があると判断した樹種を，利用可能樹種として選定した。

3．有望樹種の選抜

利用可能とした樹種の中から，有望樹種を選抜するための選抜条件を設定し，その条件に該当する樹種を，調査の結果から判断して有望樹種に選抜した。その条件は

1981.2.4受理　＊　本報の一部は昭和55年度園芸学会中四国支部会（山口市）で講演発表した。

次のとおりである。

(1) 切枝花木として，とくにすぐれた観賞価値のある樹種

(2) 既に利用されている樹種で，今後においても有望であると判断した樹種

(3) 繁殖および栽培が容易であると推定した樹種

(4) 日持ちがよく，荷造が容易で輸送性があると推定した樹種

調査結果および考察

1．樹種の探索，調査

(1) 資料，文献による探索，調査

既に切枝花木として利用され，本県内に自生している樹種について秋田・平岩[1]，貝原[3]，小杉[6]，小堀・千ら[4]，宮沢[9),10)]，佐藤[22]，関[23]，安田[25]の記載の中から選定した。選定した樹種は，第1表に示しているように，花を観賞の対象とする樹種が17，果実を観賞の対象とする樹種が16，葉を観賞の対象とする樹種が4，芽を対象とする樹種が2の合計39樹種であった。

(2) 生花市場調査

1977，1978年に岡山県生花市場に出荷された既利用樹種は第2表に示したとおりであり，調査結果の概要は次のとおりであった。

本県内に自生する樹種で，和名の明らかなものだけでも55樹種を数え，これに花戸名（花商独自の呼び名）や地方名などで呼ばれ，和名の不明な樹種と県外の自生樹種を含めると60余種になることを確認した。

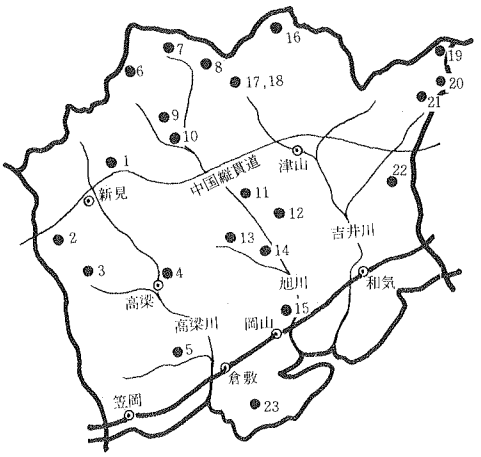
55樹種の利用形態数は，1形態の利用樹種から4形態を利用する樹種がある。1樹1形態の利用樹種は38（約70%），以下2形態の利用樹種11（約20%），3形態の利用樹種4，4形態が利用されるものは2種樹であった。

利用形態別の樹種数は，展開葉の利用樹種が最も多く26樹種（約30%），以下花の利用21樹種（約25%），果実の利用13樹種（約20%），紅葉と出芽の利用樹種は共に8樹種（各10%）で休眠枝の利用が最も少なかった。

出荷量の正確な数量は不明であったが，比較的多い樹種はアブラチャン，ウメモドキ，ウラジロノキ，コブシ，シキミほか13樹種の合計18樹種（55樹種の約33%）にすぎなかった。なお，これら樹種の出荷時期（期間）をも調査して第2表に加えた。

(3) 現地探索，調査

第1図に示した23地域の探索，調査を，1974年から1980年にわたって行なった。この現地探索は，資料，文献による探索，調査や生花市場の調査によって明らかになった未利用樹種の探索，調査を主体とし，同時に既利用樹種を含めた利用形態，利用時期などの確認をも含めて行なった。



第1図　探索地域概要図

（注）1．新見市　2．阿哲郡哲西町　3．川上郡備中町
4．高梁市　5．小田郡矢掛町　6．真庭郡川上村
7．同郡八束村　8．同郡中和村　9．同郡勝山町
10．同郡落合町　11．久米郡旭町　12．同郡久米南町
13．御津郡加茂川町　14．同郡建部町　15．岡山市
16．苫田郡上斉原村　17．同郡富村　18．同左
19．英田郡西粟倉村　20．同郡東粟倉村　21．同郡大原町
22．和気郡吉永町　23．倉敷市

第1表　岡山県に自生する切枝用の既利用樹種（資料，文献による）

樹種名	観賞対象	樹種名	観賞対象	樹種名	観賞対象	樹種名	観賞対象
アカメガシワ	芽	コハウチワカエデ	葉	スイカズラ	花	ヘビノボラズ	果実
アケビ	果実	コバノガマズミ	果実	ツクバネ	果実	マユミ	〃
アズキナシ	〃	コバノミツバツツジ	葉	ナガバモミジイチゴ	花	マンリョウ	〃
イヌツゲ	葉	コマユミ	〃	ニワトコ	〃	メギ	〃
ウツギ	花	コムラサキ	果実	ネコヤナギ	〃	ヤブコウジ	〃
カマツカ	果実	ザイフリボク	〃	ノブドウ	果実	ヤブデマリ	花
カンボク	〃	サネカズラ	〃	ハナイカダ	〃	ヤマハギ	〃
コガクウツギ	花	サラサドウダン	花	ハンノキ	花	ヤマブキ	〃
コウゾ	〃	シモツケ	〃	ヒメウツギ	〃	リョウブ	芽
コウヤミズキ	〃	シロヤマブキ	〃	フジ	〃	計39樹種	

花対象＝17樹種，果実対象＝16樹種，葉対象＝4樹種，芽対象＝2樹種

第2表　岡山県に自生する切枝用の既利用樹種（市場出荷樹種）※

	樹種名	形態別の利用時期（月）						利用形態数	出荷量		樹種名	形態別の利用時期（月）						利用形態数	出荷量
		休眠枝	出芽枝	展開葉	花	果実	紅葉					休眠枝	出芽枝	展開葉	花	果実	紅葉		
1	アセビ			7—12	2—4			2	少	30	ナツツバキ				6—7			1	少
2	アブラチャン				11—4	9—11		2	多	31	ナナカマド		2—5	5—8		10—11	9—11	4	多
3	イタヤカエデ		4					1	少	32	ナンキンナナカマド			5—9		10—11	9—11	3	少
4	ウバメガシ			7—8				1	少	33	ニシキギ			7			11	2	多
5	ウメモドキ					9—12		1	多	34	ネジキ	12—2						1	少
6	ウラジロノキ		2—5	6—8		10	9—11	4	多	35	ネズ			8—9				1	少
7	ウリハダカエデ	1—4	4—5					2	多	36	ノリウツギ				8—9			1	少
8	オオカメノキ				4—5			1	少	37	バイカツツジ			6—8	6		9—11	3	少
9	カクレミノ			1—3 7—11				1	中	38	ヒサカキ			1—12				1	中
10	キブシ				2—4			1	中	39	フサザクラ				1—4			1	少
11	クマザサ			12				1	少	40	ブナ		4					1	少
12	クリ					8—10		1	中	41	ベニドウダン			5—8	5—6		9—10	3	中
13	クロモジ				11—4			1	多	42	ホオノキ	1—3	3—4		3—5			3	中
14	コブシ				1—4			1	多	43	マツ			7—3				1	多
15	サカキ			1—12				1	多	44	マルバマンサク				11—3	9—10		2	多
16	サルトリイバラ					9—10		1	少	45	ムベ			6—9		10—12		2	少
17	シキミ			1—12				1	多	46	ムラサキシキブ					9—10		1	中
18	シロバナウンゼンツツジ			3—4 6—11				1	多	47	モミ			11				1	少
19	スノキ			5—9				1	少	48	ヤブサンザシ		3			9—10		2	少
20	タカノツメ		2—4					1	少	49	ヤブツバキ			7—9	1—4			2	多
21	タムシバ				1—4			1	多	50	ヤマウグイスカグラ	1—2			4			2	少
22	ダンコウバイ				11—4			1	中	51	ヤマザクラ				3—4			1	少
23	チマキザザ			12				1	少	52	ヤマナシ				3			1	少
24	チャノキ			9—11				1	中	53	ヤマフジ			6—7	3—5			2	多
25	ツガ			3—4 8—12				1	中	54	ヤマボウシ				3—5			1	少
26	ツゲ						9—3	1	中	55	ヤママモモ			7				1	少
27	ツノハシバミ					8—10		1	少										
28	ツルウメモドキ					8—12		1	多	形態別樹種の計		4	8	26	21	13	8	1＝38 2＝11 3＝4 4＝2	多＝18 中＝11 少＝26
29	ナツハゼ			4—9			9—11	2	多										

※ 岡山県生花市場　1977，1978年の2ヵ年調査

この探索調査によって，未利用樹種の中から新たに49樹種を選定し，利用可能樹種に加えた。各探索地域に自生する主要な樹種を，第3表に三大河川水系別に整理して示した（結果の概要は省略）。

(4)　利用形態

枝物（筆者らは切枝花木と呼ぶ）の観賞対象について小杉[6]は花物，葉物，果物の3区分とし，関[23]は花，実，緑葉，紅葉の4区分とした。また，植木の観賞対象について安田[25]，吉川[26]は花，芽，果実，葉の4区分にしている。これらはいづれも，観賞の主要な部分および形態を表わしているが，筆者らは探索，調査の結果から前記の諸点に加えて，さらに多くの観賞に値する特長のあることを確認した。従って，切枝花木として使用するうえでの利用形態を①休眠枝，②出芽枝，③展開葉，④花，⑤果実，⑥紅（黄）葉，⑦枯葉の7区分とした。

各樹種の利用形態は，すでに第2表に示したように，1樹1形態の樹種から1樹4形態におよぶ樹種もある。その中には，例えば花と展開葉，紅葉と果実などの利用がほぼ同時期になる樹種もあるが，いづれの特長も観賞価値の高いものであるから，それぞれに区分しておいた方が，利用のうえから便利であると考えた。

2．利用可能な樹種の選定

資料，文献により選定した39樹種，市場の調査からの55樹種（計94の既利用樹種），現地探索によった未利用

第3表　探索地域と主な自生樹種

探索		地域	標高	主な樹種名
高梁川水系	1	新見市（足見，下野呂，土橋，馬繋，草間）	320～420 m	シロヤマブキ，ヤブサンザシ，ゴンズイ，ヤマウグイスカグラ，チョウジガマズミ，ツクバネウツギ。
	2	阿哲郡哲西町（鯉が窪）	500～600	コバノミツバツツジ，アテツマンサク，ウメモドキ，キブシ，クロモジ。
	3	川上郡備中町（天神山）	500～778	ウリハダカエデ，ウラジロノキ，ナンキンナナカマド，ヤマボウシ，ツルシキミ，ウリカエデ。
	4	高梁市（臥牛山）	480	ヤブデマリ，シロバナウンゼンツツジ，サカキ，コシアブラ，ウリハダカエデ，カツラ，ホオノキ。
	5	小田郡矢掛町（平林）	200～231	ヒサカキ，カクレミノ，マンリョウ，アセビ，ヤブツバキ，ムベ，ザイフリボク。
旭川水系	6	真庭郡川上村	400～800	ナナカマド，コブシ，イタヤカエデ，ウリハダカエデ，タムシバ，ダンコウバイ，カツラ，オトコヨウゾメ，クロモジ，レンゲツツジ，キブシ，ニワトコ。
	7	〃　八束村		
	8	〃　中和村		
	9	真庭郡勝山町（前山，星山，竹原，野呂）	480～800	ナナカマド，ホオノキ，ダンコウバイ，ウラジロノキ，バイカウツギ，ツルシキミ，ツリバナ，ヤブデマリ。
	10	真庭郡落合町（塩滝）	340	アテツマンサク，キブシ，ツクバネ，ヤマトレンギョウ，ゲンカイツツジ，イブキシモツケ。
	11	久米郡旭町西垪和	150～200	アブラチャン，ヤブサンザシ，コシアブラ，ハナイカダ，クロモジ，ホオノキ，ヤマコウバシ。
	12	〃　全間		
	13	御津郡加茂川町	60～200	アテツマンサク，ナツツバキ，キブシ，サカキ，ホオノキ，シロバナウンゼンツツジ。
	14	〃　建部町		
	15	岡山市（金山）	500	ウリハダカエデ，カクレミノ，リョウブ，ウラジロノキ，ダンコウバイ，ムベ，ホオノキ。
吉井川水系	16	苫田郡上斉原村（岡山県立森林公園）	840～1,100	トチノキ，イソノキ，ナナカマド，ヤマボウシ，イタヤカエデ，ナツツバキ，タムシバ。
	17	苫田郡富村（大空山，大仙屋敷，上杉越，池の山）	600～1,100	ナツツバキ，アズキナシ，ブナ，ミズキ，コシアブラ，オオカメノキ，ダイセンミツバツツジ，ナナカマド，ホオノキ，タムシバ。
	18	苫田郡富村（大空山）	1,100	カツラ，フサザクラ，コブシ，タムシバ，トチノキ，コシアブラ，ウリハダカエデ。
	19	英田郡西粟倉村（若杉）	1,000	ツノハシバミ，ブナ，フサザクラ，ノリウツギ，タニウツギ，ヤマボウシ，イタヤカエデ。
	20	英田郡東粟倉村（日名倉山）	600～800	チドリノキ，ミツデカエデ，アブラチャン，ダンコウバイ，コブシ，タムシバ。
	21	英田郡大原町（金谷）	250～300	ゴンズイ，アブラチャン，タムシバ，クロモジ，ミズキ，キブシ，ホオノキ，ダンコウバイ。
	22	和気郡吉永町（八塔寺）	150～400	カクレミノ，ニワフジ，シロバナウンゼンツツジ，ネジキ，コバノガマズミ，コシアブラ。
その他	23	倉敷市（由加台地）	200～276	ウリハダカエデ，カクレミノ，リョウブ，ネジキ，ヒサカキ。

の樹種の中から49樹種，計143樹種を切枝花木として観賞価値があると判断し，利用可能樹種に選定した。これを利用形態別に整理して付表に示した。付表中の各樹種の記載順位は大井[20]の分類に従って配列した。

利用可能とした143樹種は，本県に自生する約500樹種[13]のうちの約30％に相当する。また，未利用の49樹種は利用可能とした樹種の約35％に当り，既利用の樹種以外にも利用が考えられる樹種の多いことが明らかとなった。未利用49樹種は，筆者らの主観によって選定したが，その観賞価値の判定には個人差があるので，異論の余地はあろう。

3．有望樹種の選抜

前記の探索，調査の結果から選定した利用可能143樹種の中から，①とくにすぐれた観賞価値のあるもの，②今後においても有望であると考えられるもの，③繁殖，栽培の容易なもの，④日持ちがよく，荷造が容易で輸送性のあるもの，の4条件のうちいずれかに該当するもの，という基準で有望樹種の選抜を行なった。その結果，既利用樹の中から51樹種（約55％），現地探索，調査による未利用樹の中から11樹種（約20％）の合計62樹種を有望樹種として選抜した。利用可能樹種から，有望樹種を選抜した経緯を第4表に示した。

第4表　有望樹種選抜の経緯

探索，調査法	利用可能樹種数	同左％	有望樹種数	同左％
資料，文献による	39	27.2		
市場調査による	既利用樹　55	38.5	51	82.3
計	94	65.7		
現地探索，調査による	未利用樹　49	34.3	11	17.7
合　計	143	100	62	100
有望樹種数％			43.4	

選抜条件の①および②については，筆者らの主観と市場担当者の意向，消費動向を合わせて選抜を行なったが，③繁殖，栽培，④日持ち，荷造，輸送性の条件については，筆者らの観察にもとずく推定によるものが多いから，この点については今後さらに検討を要する。

有望62樹種の特長は次のとおりである。なお，樹種名に付した番号は，付表のものと一致させておいた。

3．クロマツ　若松，老松はとくに風情があり，年始の装飾には欠がせない。

7．サルトリイバラ　果実は大きくて光沢があり，茎，葉と共に独特な観賞価値をもっており，需要の多い樹種である。

17．ツクバネ　小指大の果実の頭に4枚の苞が羽根状につき，他に例のない特異な形態をもっており，茶花によく使われる。

18．フサザクラ　雄しべが房状に垂れ下り，紫紅色となって美しい。開花は葉前性（葉の出る前に開花する性質）で，花の形態に特長がある。

21．ムベ　数枚の濃緑色の小葉と，紫色に熟した大きな果実は，よく調和してすぐれた観賞価値がある。

25．タムシバ　(26参照)

26．コブシ　(25) と共に中形の白色花で，蕾から開花にいたるまで観賞され，花色から清そな感じを受ける。開花は葉前性で，加温により開花促成が可能である。タムシバと混合されて出荷されることが多い。

27．シキミ　葉に芳香と光沢があり，佛事用に欠がせない。とくに関西地方では利用が多く，栽培による生産が強く要望されている樹種の一つである。

29．ダンコウバイ　淡黄色の芳香のある小花が集ってつき (31，32) と共に春にさきがけて開花し，初春の雰囲気にふさわしい観賞価値がある。開花は葉前性で，加温により開花促成が可能である。

30．ヤマコウバシ　葉には芳香があり，紅葉はとくに美しく，枯葉は新芽の出るころまで枝についており，新芽の観賞価値も高い。

31．クロモジ　(29参照)

32．アブラチャン　(29参照)

33．ノリウツギ　花序の長いものは30 cmにも達し，枝先について白色の中性花を，多数混在して美しい。開花は7～9月で観賞価値は高い。

34．コガクウツギ　花序に小さい白色の中性花を混在し，緑葉とよく調和して美しい。

37．ヤブサンザシ　紫褐色の枝と鮮緑色の新芽，および光沢のある赤熟果が美しい。近年，栽培化されつつある樹種の一つである。

38．アテツマンサク　(39,40) と共に線形の淡黄色花弁のある花で，他樹種にない特長をもっている。早春に開花し，葉前性で加温により開花促成が可能で，利用も多い。

39．マルバマンサク　(38参照)

40．ニシキマンサク　(38参照)

41．コウヤミズキ　5～10個の淡黄色花が，花序について下垂する。開花は葉前性で加温により開花促成が可能である。蕾の時期から利用され，展開葉も観賞価値があり，利用期間の長い樹種である。

42．ショウコウミズキ　(41参照)

43．イブキシモツケ　花径5 mm程度の白色花が，散形状の花序に集って咲き，鮮緑色の葉と調和して美しい。

44．シモツケ　花は (43) に似るが，花色は淡紅色のものが多く，利用が多く観賞価値も高い。

49，ヤマナシ　花径1.5 cm程度の白色花が散形状につく。開花直前の蕾はとくに美しい。開花は葉前性で，加温により開花促成が可能である。

52．ナナカマド　羽状複葉は，夏季には涼しさを感じ

させ，紅葉と共に好んで利用される。果実は集って多数つき，赤熟して紅葉と共に観賞価値が高い。出芽枝も利用され，利用形態の多い樹種の一つである。

53．ナンキンナナカマド　(52) とほぼ同じであるが，低木で栽培し易く，果実の着生もよいから (52) より将来性があると考えられる。

54．アズキナシ　果実の観賞が主体でカマツカ，ザイフリボクなどと混合して出荷されることが多い。果実は枝先についてやや大きく，美しい光沢がある。

55．ウラジロノキ　新芽，若枝，花序，展開葉の裏などに白色の綿毛が密生し，とくに新芽は銀白色に輝いて，他樹種にない特長をもっている。果実は赤熟して美しい。利用形態の多い樹種の一つである。新芽は加温促成によって早期に出荷することができる。

60．フジ　(61参照)

61．ヤマフジ　(60) と共に長い総状花序に青色花をつける。(61) は苞の外に褐色の軟毛を密生し，全花がほぼ同時に開花する性質があり，加温による促成には便利がよい。開花は共に葉前性で，観賞価値は高い。

66．フウリンウメモドキ　長梗に赤熟果がついて下垂する特長があり，果実は (67) より数は少ないが観賞価値は高い。

67．ウメモドキ　果実は短枝に多数ついて赤熟し，利用の多い樹種の一つで，近年は栽培されることが多い。(66) と共に雌雄異株である。

69．ツルウメモドキ　蒴果の表面は黄色となり，熟して中から朱色の種子が現われる。観賞は果実だけであるが，8月ごろから12月ごろまで，かなり長期にわたって利用され，栽培化が強く望まれている樹種の一つである。

70．ニシキギ　枝に翼をつけ，紅葉はとくに美しい。夏季は展開葉，冬は休眠枝が利用され，観賞価値が高い。

71．コマユミ　紅葉はとくに美しく，観賞される期間は6月から11月ごろまでの，葉のある時期に限られる。

73．マユミ　桃紅色に熟した果実は，長梗に多数ついて高い観賞価値がある。近年，需要が伸びつつある樹種の一つで，雌雄異株である。

74．ツリバナ　(73) よりやや長い梗に，大きい濃紅色の果実がついて下垂する。紅葉も美しく観賞価値は高い。

76．ゴンズイ　濃緑色のやや厚い羽状複葉をもち葉柄，果実は紅色となる。緑葉と紅色の調和が美しい。

77．イタヤカエデ　(78) と共に新芽が観賞され，加温による促成も行われる。展葉前の葉先は斜降する性質があり，観賞価値は高い。

78．アカイタヤ　(77参照)

81．ウリハダカエデ　大形の5角形の扇状葉をもち，木肌は緑色である。新枝，休眠芽は紅色を帯びることが多く，紅葉も美しい。カエデ科の中では利用形態の多い樹種である。

82．メグスリノキ　若葉，葉柄，葉に粗毛が密生し，展葉前の葉先は斜降して独特な風情がある。カエデ科の中ではとくに紅葉の美しい樹種である。

88．ヤブツバキ　葉は光沢があり，紅葉するものもあって美しい。紅色の花は枝先に1個つき半開する。切枝には小花が好まれ将来，需要の伸びが期待し得る樹種の一つである。

89．ナツツバキ　白い花は6月下旬ごろ半開し，ツバキに似る。花と鮮緑葉は調和して美しいが，花は短命である。脱苞後の芽は銀白色に輝いて観賞価値は高い。

90．サカキ　神事用に欠がせない樹種の一つである。

91．ヒサカキ　主に神事用として (90) の代用として使用されることが多く，欠がせない樹種である。

92．キブシ　枝の先端近くに淡黄色花が多数ついて下垂する特長がある。開花は葉前性で加温による開花促成が可能である。雌雄異株で雄花が好まれる。

93．カクレミノ　幼木の葉は3～5裂し，表面に光沢があって美しい。成木になるにつれて，葉の裂はなくなるので，利用は幼木の時期に限られる。

94．コシアブラ　出芽後の芽は鮮緑色で，展葉直前の葉先は斜降して独特な形となる。灰褐色の枝と葉色が調和して観賞価値は高い。

95．タカノツメ　(94参照)

97．ミズキ　新枝の生長期は緑色だが，落葉期に入ると紅色になり，光沢があって美しい。枝はやや上部でよく分枝して観賞価値は高い。

102．バイカツツジ　小さい葉は枝先に集ってつき，紅葉して美しい。花は径1.5 cm くらいで梅花に似る。主に展開葉が観賞される。

103．シロバナウンゼンツツジ　小枝は細くよく分岐して横に張る。極めて小さい葉は常緑性で密につき，独特な風情がある。花は白く径1.5 cm 程度である。利用形態は展開葉だけであるが，常緑性であるから利用期間は長い。

113．サラサドウダン　鐘状の花は花序について下垂する。葉はのちに紅葉して美しく，利用期間は比較的長く，観賞価値は高い。

114．ベニドウダン　花は (113) よりやや小さく濃紅色で，主に展開葉が利用される。

115．ウスノキ　鮮緑色の葉は密につき，のちに紅葉して美しい。枝はよく分岐してやや横に張る。(116，117) と共に展開葉と紅葉が観賞される。なかでも (117) の需要は多く，栽培化が強く要望されている樹種の一つである。

116．スノキ　(115参照)

117．ナツハゼ　(115参照)

128. ニワトコ　2月ごろ花序は瘤状にふくらみ，紫緑色になる特長がある。枝は灰褐色で花序の色とよく調和して美しい。生育は極めて旺盛で，8月ごろ果実が赤熟する。観賞価値の高い樹種である。

129. カンボク　徒長枝はよく伸びて赤褐色，新芽は鮮緑色で茎の色と調和して美しい。果実はやや大きく赤熟し，光沢があってよく利用される。

134. オトコヨウゾメ　淡桃色の小花が枝先につく。果実は紅熟してやや長い梗について下垂する。葉はのちに紅葉して美しく観賞価値は高い。

135. チョウジガマズミ　花は枝先について芳香があり展開葉，紅葉と共に美しく観賞価値は高い。

143. ヤマウグイスカグラ　徒長枝につく葉の基部は互にゆ着して丸くなり，茎はこれを貫通した特殊な形状となる。枝は灰褐色で休眠枝の利用が主体であるが，展開葉も観賞される。

4．利用時期および期間

利用が可能とした143樹種の利用時期および，期間(付表参照）の概要は次のとおりであった。

(1) 休眠枝が利用されるのは11～3月のほぼ5ヵ月間で，該当樹種は6樹種であった。

(2) 出芽枝は加温によって促成して出荷される2月ごろから，自然ほう芽にいたる4月ごろまでの3ヵ月の，比較的短期間の利用樹種が多く，該当する樹種数は22樹種であった。

(3) 展開葉の利用は，常緑樹でほぼ周年にわたって利用されるものもあるが，落葉樹では葉の硬化した5月から9月ごろまでの5ヵ月程度の利用樹種が多く，該当樹種数は49樹種であった。

(4) 花の利用は，加温促成による11月ごろから，自然開花する4月ごろまでの長期にわたって利用される樹種もあるが，全般的には4～6月のほぼ3ヵ月程度の樹種が多く，該当樹種数は最も多く64樹種であった。

(5) 果実の利用は，特殊な樹種を除けば，9～12月のほぼ4ヵ月以内の利用樹種が多く，該当樹種数は37樹種であった。

(6) 紅葉の利用は，ほぼ9～11月の3ヵ月程度の利用樹種が主体であり，該当樹種数は23樹種であった。

(7) 枯葉の利用樹種は最も少なく2樹種で，その利用は11月ごろから3月ごろまでのほぼ5ヵ月間であった。

以上のとおりであるが，1樹種の利用期間が長期にわたるものは利用価値が高く，また，短期間の利用であっても観賞価値が高ければ有望であると考えられる。

摘　　要

本県に自生する樹木を利用して，切枝花木を栽培により安定的に供給することを前提に，その足がかりとして有望樹種の選抜を行なった。

選抜は先づ，既利用樹種について調査を行ない，資料，文献の中から39樹種を，市場に出荷されている切枝の中から55樹種の計94樹種を選定した。さらに，現地探索，調査による未利用樹の中から49樹種を選定し，合計143樹種を利用可能樹種とした。有望樹種の選抜は前記の選定樹種の中から，選抜条件を設定して行なった。その結果，既利用樹種の中から51，未利用樹種の中から11の合計62樹種を選抜した。(第4表参照)

選定，選抜のうえで必要とした各樹種の特長，利用形態および利用時期（期間）の確認は，探索および調査によって行なった。

利用形態を①休眠枝，②出芽枝，③展開葉，④花，⑤果実，⑥紅（黄）葉，⑦枯葉の7区分とし，有望樹種の特長を明らかにした。

参考資料および文献

1．秋田浩・平岩堅太郎　1959　新らしい草花・花木百科辞典．鷺の宮書房，東京　485 PP

2．岩村通正　1960　西粟倉村若杉天然林調査報告．岡山県西粟倉村若杉天然林調査会，岡山　49 pp

3．貝原益軒撰（岸田・田中・矢野考註）　1978　大和本草（第2冊）．有朋書房，東京　348 pp

4．小堀宗慶・千宗守・松崎喬　1979　茶花の図鑑（風炉編，炉編）．世界文化社，東京　159 pp

5．小坂弘　1978　鯉が窪の湿原　岡山県阿哲郡哲西町．自然と文化の保護協会編，岡山　176 pp

6．小杉清　1969　枝物，庭木（実際花卉園芸（3））．地球出版，東京　389 pp

7．倉敷市企画部　1975　由加台地（環境保全調査）．倉敷市，79 pp

8．牧野富太郎　1974　牧野新日本植物図鑑（26版）．北隆館，東京　1060 pp

9．宮沢文吾　1960　観賞植物図説．養賢堂，東京　912pp

10．———— 1978　花木園芸（複刻第1刷）．八坂書房，東京　575 pp

11．文部省　1956　学術用語集（植物学編）．大日本図書，東京　155 pp

12．難波早苗　1955　臥牛山国有林植物目録．岡山県高梁市役所，岡山　18 pp

13．———— 1960　岡山県樹木目録．岡山県林業試験場，岡山　62 pp

14．———— 1973　岡山県新見市草間地区自然休養村の植生と特殊植物の利用について．岡山県農業会議，岡山　19 pp

15．———— 1976　岡山県苫田郡富村自然休養村の植生と特殊植物の利用について．岡山県農業会議，岡山

12 pp
16. ———— 1978　岡山県真庭郡勝山町自然休養村の植生と特殊植物の利用について．岡山県農業会議，岡山　13 pp
17. ———— ・中原清士・西原礼之助・波田善夫・藤原和男　1978　第2回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書．岡山県，岡山　146 pp
18. 岡山県　1930　岡山県内生物目録（植物の部）．岡山県　83 pp
19. 岡山県環境部自然保護課　1977　岡山の自然保護地域（その自然と植物）．岡山県，岡山　48 pp
20. 大井次三郎　1978　日本植物誌（顕花編）　改訂増補新版．至文堂，東京　1584 pp
21. 山陽新聞社　1967　金山物語．岡山　93 pp
22. 佐藤信淵　1901　草木六部耕種法．文魁堂，東京　514 pp
23. 関慎之介　1939　花木類栽培の実際（上巻）．養賢堂，東京　436 pp
24. 高田真一　1977　吉備高原における潜在自然植生．岡山県川上郡成羽町立吹屋中学校理科教室紀要，**3**：4—33
25. 安田勲　1973　植木園芸ハンドブック．養賢堂，東京　827 pp
26. 吉川勝好　1972　造園用花木類の樹種目録．京都大学農学部演習林集報，**10**：65—118

付表　岡山県に自生する切枝の利用が可能な樹種

科名		樹種名		有望樹種	既※未利用別	形態別の利用時期（月） 休眠枝	出芽枝	展開葉	花	果実	紅葉	枯葉	左の利用期間(月)
Ⅰ 裸子植物　GYMNOSPERM													
1	マツ	1	モミ		○			12					1
	〃	2	ツガ		○			3—4 8—12					7
	〃	3	クロマツ	○	○			7—3					9
2	ヒノキ	4	ネズ		○			8—9					2
Ⅱ 被子植物　ANGIOSPERM 単子葉植物　MONOCOTYLEDON													
3	イネ	5	クマザサ		○			12—1					2
	〃	6	チマキザサ		○			12—1					2
4	ユリ	7	サルトリイバラ	○	○					9—10			2
双子葉植物　DICOTYLEDON 離弁花類　ARCHICHLAMYDEAE													
5	ヤナギ	8	ネコヤナギ		○				3				1
6	ヤマモモ	9	ヤマモモ		○			7 11					2
7	カバノキ	10	ツノハシバミ		○					10—11			2
	〃	11	ハンノキ		○				12—3				4
8	ブナ	12	イヌブナ		○		4					11—3	6
	〃	13	ウバメガシ		○			7—8					2
	〃	14	コナラ		×		4—5				11—12		4
	〃	15	クリ		○					8—10			3
9	クワ	16	コウゾ		○				4				1
10	ビャクダン	17	ツクバネ	○	○					11—12			2
11	フサザクラ	18	フサザクラ	○	○				1—4				4
12	カツラ	19	カツラ		×			7—8					2
13	アケビ	20	アケビ		○					10—11			2
	〃	21	ムベ	○	○			7—9		10—12			6
14	メギ	22	ヘビノボラズ		○		5			11—12			3
	〃	23	メギ		○					11—12			2
15	モクレン	24	ホオノキ		○		1—5		1—5				5
	〃	25	タムシバ	○	○			7—9	1—5				8
	〃	26	コブシ	○	○				1—5				5
	〃	27	シキミ	○	○			1—12					12
	〃	28	サネカズラ		○					10—12			3
16	クスノキ	29	ダンコウバイ	○	○				11—4				6

科	名	樹	種	名	有望樹種	既未※利用別	形態別の利用時期（月）							左の利用期間(月)
							休眠枝	出芽枝	展開葉	花	果実	紅葉	枯葉	
16	クスノキ	30	ヤマコウバシ		○	×			7—9			10—11	11—3	7
	〃	31	クロモジ		○	○				11—4				6
	〃	32	アブラチャン		○	○				11—4	9—11			8
17	ユキノシタ	33	ノリウツギ		○	○				7—9				3
	〃	34	コガクウツギ		○	○				5—6				2
	〃	35	ウツギ			○				6—7				2
	〃	36	ヒメウツギ			○				5—6				2
	〃	37	ヤブサンザシ		○	○		2—3				10—12		5
18	マンサク	38	アテツマンサク		○	×				11—3				5
	〃	39	マルバマンサク		○	○				11—3				5
	〃	40	ニシキマンサク		○	×				11—3				5
	〃	41	コウヤミズキ		○	○			6—8	11—3				7
	〃	42	ショウコウミズキ		○	×			6—8	11—3				7
19	バラ	43	イブキシモツケ		○	○				6				1
	〃	44	シモツケ		○	○				6				1
	〃	45	シロヤマブキ			○				5				1
	〃	46	ヤマブキ			○				5				1
	〃	47	ナガバモミジイチゴ			○				5—6				2
	〃	48	ヤマザクラ			○				3—4				2
	〃	49	ヤマナシ		○	○				3—4				2
	〃	50	ザイフリボク			○					10—12			3
	〃	51	カマツカ			○					10—12			3
	〃	52	ナナカマド		○	○		2—3	4—9		9—12	10—12		11
	〃	53	ナンキンナナカマド		○	○			4—9		9—12	10—11		9
	〃	54	アズキナシ		○	○					9—12			4
	〃	55	ウラジロノキ		○	○		2—3	4—9		9—12			11
20	マメ	56	ネムノキ			×				6—7				2
	〃	57	ハネミイヌエンジュ			×		4—5						2
	〃	58	ヤマハギ			○				9				1
	〃	59	ニワフジ			×				5—6				2
	〃	60	フジ		○	○				3—6				4
	〃	61	ヤマフジ		○	○				3—6				4
21	ミカン	62	ツルシキミ			×					11—3			5
22	トウダイグサ	63	アカメガシワ			○		4		6				2
23	ツゲ	64	ツゲ			○						9—3		7
24	モチノキ	65	アオハダ			×					9—12			4
	〃	66	フウリンウメモドキ		○	×					9—12			4
	〃	67	ウメモドキ		○	○					9—12			4
	〃	68	イヌツゲ			○			7—12					6
25	ニシキギ	69	ツルウメモドキ		○	○					8—12			5
	〃	70	ニシキギ		○	○	12—3		6—8			9—11		10
	〃	71	コマユミ		○	○			6—8			9—11		6
	〃	72	ツルマサキ			×			6—8					3
	〃	73	マユミ		○	○					9—12			4
	〃	74	ツリバナ		○	×					9—12	10—12		4
26	ミツバウツギ	75	ミツバウツギ			×				5—6				2
	〃	76	ゴンズイ		○	×			6—8		9—10	9—11		6
27	カエデ	77	イタヤカエデ		○	○		3—4						2
	〃	78	アカイタヤ		○	○		3—4						2
	〃	79	チドリノキ			×			6—9					4
	〃	80	ウリカエデ			×						9—11		3
	〃	81	ウリハダカエデ		○	○		2—4	6—9			10—11		9
	〃	82	メグスリノキ		○	×		3—4				10—11		4

	科名		樹種名	有望樹種	既未※利用別	形態別の利用時期(月) 休眠枝	出芽枝	展開葉	花	果実	紅葉	枯葉	左の利用期間(月)
27	カエデ	83	ミツデカエデ		×			6—9					4
28	トチノキ	84	トチノキ		×	11—3	3—5						8
29	クロウメモドキ	85	イソノキ		×					8—10			3
30	ブドウ	86	ノブドウ		○					10			1
31	ツバキ	87	チャノキ		○			9—11	11				3
	〃	88	ヤブツバキ	○	○			9—7	4				11
	〃	89	ナツツバキ	○	○	12—3	2—3		6—7				6
	〃	90	サカキ	○	○			1—12					12
	〃	91	ヒサカキ	○	○			1—12					12
32	キブシ	92	キブシ	○	○				2—4				3
33	ウコギ	93	カクレミノ	○	○			1—3 7—12					9
	〃	94	コシアブラ	○	×		2—4						3
	〃	95	タカノツメ	○	○		2—4						3
34	ミズキ	96	ハナイカダ		○					9—11			3
	〃	97	ミズキ	○	×	11—3	12—4						6
	〃	98	ヤマボウシ		○				3—5				3
	合弁花類　METACHLAMYDEAE												
35	リョウブ	99	リョウブ		○		2—4						3
36	ツツジ	100	ホツツジ		×			5—8			9—11		7
	〃	101	ゲンカイツツジ		×				5				1
	〃	102	バイカツツジ	○	○			5—8					4
	〃	103	シロバナウンゼンツツジ	○	○			3—4 6—11					8
	〃	104	ビッチュウヤマツツジ		×				5				1
	〃	105	ミヤコツツジ		×				5—6				2
	〃	106	キシツツジ		×				5—6				2
	〃	107	サイコクミツバツツジ		×			7—9	5—6				5
	〃	108	コバノミツバツツジ		×			7—9	5—6				5
	〃	109	ダイセンミツバツツジ		×			7—9	5—6				5
	〃	110	レンゲツツジ		×				5				1
	〃	111	アセビ		○			7—10	2—4				7
	〃	112	ネジキ		○	12—2							3
	〃	113	サラサドウダン	○	○			4—8	5—6		9—11		8
	〃	114	ベニドウダン	○	○			4—8	5—6		9—11		8
	〃	115	ウスノキ	○	×			5—8			9—11		7
	〃	116	スノキ	○	○			5—8			9—11		7
	〃	117	ナツハゼ	○	○			4—8			9—11		8
37	ヤブコウジ	118	イズセンリョウ		×					10			1
	〃	119	ヤブコウジ		○					10—12			3
	〃	120	マンリョウ		○					10—12			3
38	ハイノキ	121	タンナサワフタギ		×					11			1
	〃	122	サワフタギ		×					11			1
39	エゴノキ	123	ハクウンボク		×				5				1
40	モクセイ	124	ヤマトレンギョウ		×				12—4				5
41	フジウツギ	125	チトセカズラ		×			7—12					6
42	クマツヅラ	126	コムラサキ		○					9—10			2
	〃	127	ムラサキシキブ		○					9—10			2
43	スイカズラ	128	ニワトコ	○	○				2—3	8—9			4
	〃	129	カンボク	○	○		3—4	6—8					5
	〃	130	オオカメノキ		○			5—8	5—6		9—11		7
	〃	131	ヤブデマリ		○				5—6		10—11		4
	〃	132	ゴマギ		×		2—4	7—8					5
	〃	133	コバノガマズミ		○				5—6	9—11			5

科名		樹種名		有望樹種	既未利用別※	形態別の利用時期（月）							左の利用期間（月）
						休眠枝	出芽枝	展開葉	花	果実	紅葉	枯葉	
43	スイカズラ	134	オトコヨウゾメ	○	×				6	9—11	10—11		4
	〃	135	チョウジガマズミ	○	×			5—8	5—6		10—11		6
	〃	136	コクツバネウツギ		×				5—6				2
	〃	137	キバナツクバネウツギ		×				5—6				2
	〃	138	ツクバネウツギ		×				5—6				2
	〃	139	ニシキウツギ		×				5—6				2
	〃	140	タニウツギ		×		3—4		5—6				4
	〃	141	ヤブウツギ		×				5—6				2
	〃	142	スイカズラ		○				5—6				2
	〃	143	ヤマウグイスカグラ	○	○	11—12		6—8					5
	計	143		62	○94 ×49	6	22	49	64	37	23	2	

※　○は既利用樹，×は未利用樹。